重要な構成要素「金子屋（かねこや）」

建築：昭和初年以前

参道の景観を構成する要素

「金子屋」は、大正年間に創業した煎餅（せんべい）屋で、敷地から少し入った部分に昭和以前と言われる切妻平入り（きりづまひら）(注)の主屋があります。

主屋の前面に、２階まで及ぶモルタル塗りの看板建築状の平板なファサードがあり、さらに参道に面して平屋の下屋が張り出し、参道側に開かれたミセ（見せ）空間となっています。かつては参道より奥まった部分に主屋があり、後に増築した可能性もあります。

主屋の奥には、何期かに分けて増築がなされ、さらに奥に祠（ほこら）やかつて煎餅を干した場所であったオープンスペースが広がります。

開放的な店空間では、店先で手焼きで煎餅を製造しながら、開け放した軒庇下で店頭販売を行い、下屋の上に看板を置いています。参道側の外観は、ファサードが連続した参道において、屋根、庇（ひさし）などのまちなみの表情を作る要素によって賑わいを演出しています。

（注）建物の大棟に平行な面、すなわち平に出入口を設ける建築形式。また、平を正面に向けるもの。（広辞苑第七版）